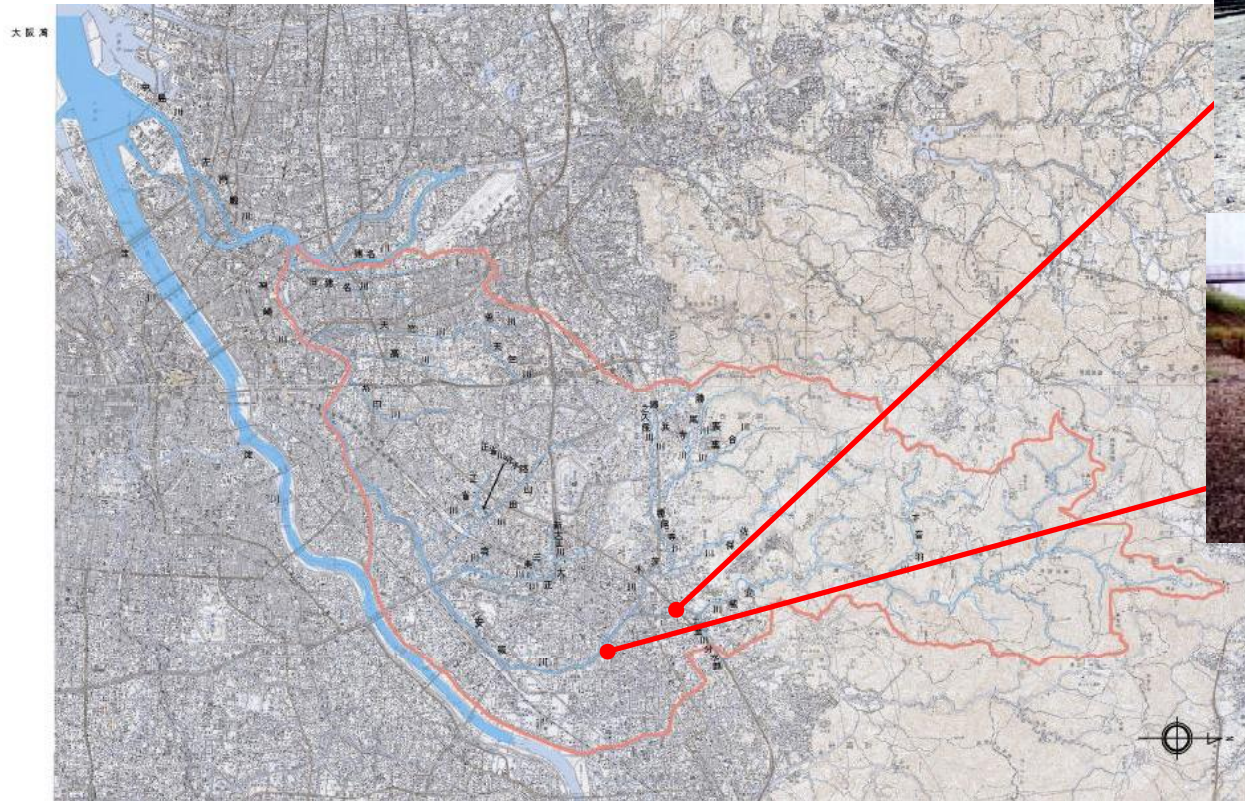


(2) 河川利用の課題

河川の水利用においては、平成6年や平成12年をはじめとし、過去に幾度となく多くの渇水を経験しており、維持流量の確保が求められています。渇水による影響には、農業用水に代表される水利用への悪影響だけでなく、瀬切れ（瀬枯れともいう）が発生することによる自然環境への負荷などが考えられます。また、流量が少なくなることによる水質の悪化も考えられます。河川の空間利用においては、これまで行われてきた河川の様々な利用を踏まえ、今後は人びとが川に親しみ、学べる空間を創出することにより、人と川のつながりをより深めることが重要です。また周辺のまちづくりと一体となった川づくりを行い、市民との協働を行いながら、生活に密着した川を目指す必要があります。

利水被害

発生期間	取水制限等の状況
S53.9.1~S54.2.8	淀川取水制限最大 10% 134 日間
S59.10.8~S60.3.12	淀川取水制限最大 20% 156 日間
S61.10.17~S62.2.10	淀川取水制限最大 20% 117 日間
H6.8.22~H6.10.4	淀川取水制限最大 20% 44 日間
H12.9.9~H12.9.10	淀川取水制限最大 10% 2 日間
H14.9.30~H15.1.8	淀川取水制限最大 10% 101 日間



平成6年(国道171号上流地点)



平成12年(千歳橋上流地点)

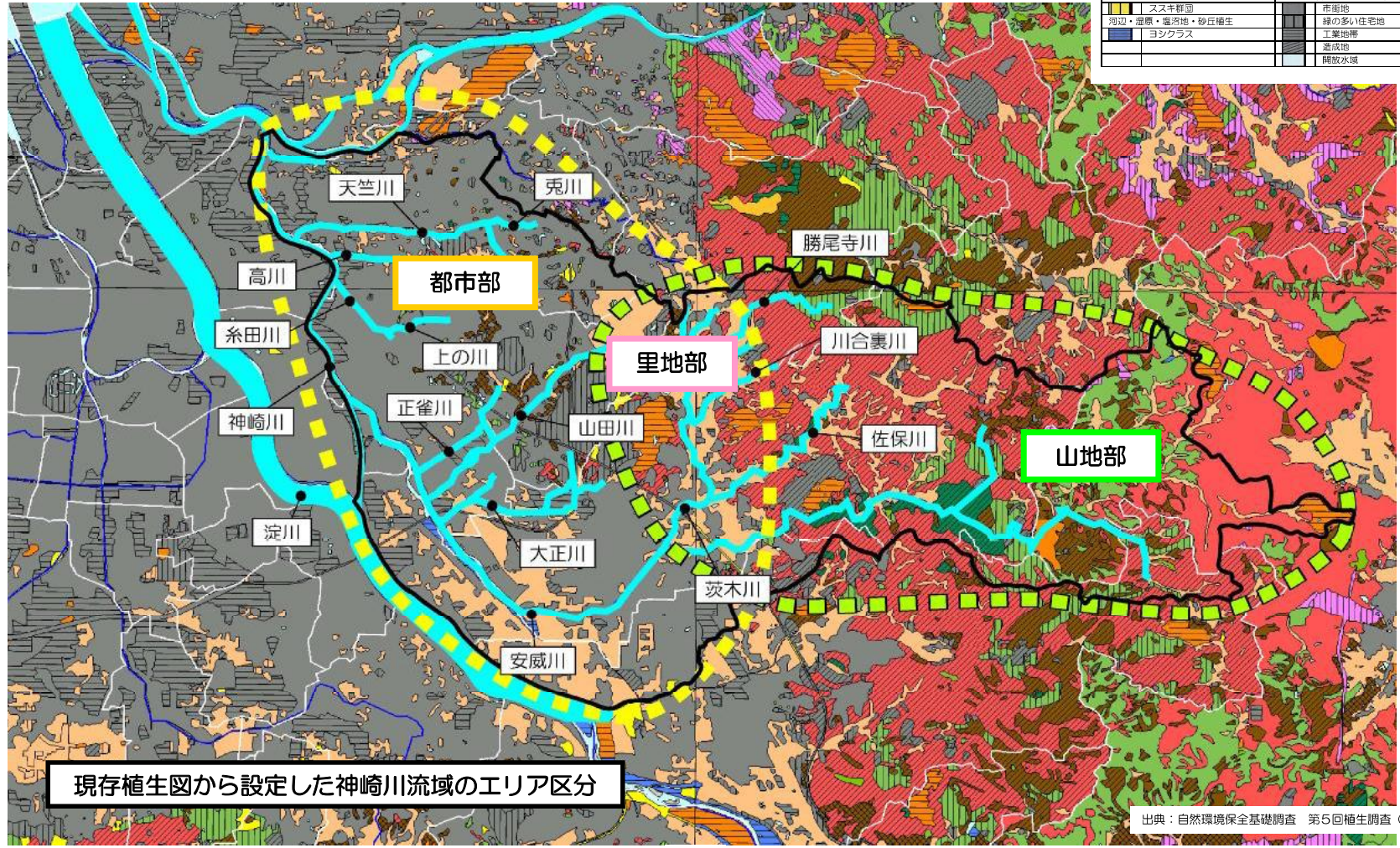
3. 河川環境の現状と課題

神崎川ブロックは山地から市街地まで様々な流域特性を備えたブロックであり、全体の自然環境をひとくくりにして論じることは困難であるため、現存植生と土地利用から「都市部」、「里地部」、「山地部」に分け、さらに各河川の「河床勾配」、「地形区分」、「河床材料の粒径や構成物質」、「蛇行や侵食の程度」、「低水路の平均深さ」などの5つの指標をもとに分類し、これらを組み合わせて、「都市を流れる河川」、「まちを流れる小河川」、「まちを流れる中河川」、「里地を流れる中小河川」、「山地を流れる中小河川」の5つのエリアに区分し、その特性とそのエリアの特徴となる動植物について以下に記述します。

ただし、安威川については、「都市を流れる河川」、「まちを流れる中河川」、「里地を流れる中小河川」、「山地を流れる中小河川」の4エリアにわたるため、安威川全体として環境の現状も最後に記載しています。

凡例

ヤブツバキクラス樹自然植生	種林地・耕作地植生
アラカシ群落	常緑針葉樹植林
サカキ・コシイ群集	スギ・ヒノキ・サウラ植林
ヤブツバキクラス樹代植生	竹林
コナラ群落	常緑果樹園
伐採群落	落葉果樹園
ススキ群落	農園
アカマツ群落	畑地雑草群落
モチツツジ・アカマツ群集	牧草地
ヤブムラサキ・コナラ群集	水田雑草群落
ブナクラス	その他(市街地・工業地帯・裸地など)
ススキ群落	市街地
河辺・灌漑・掘り地・砂丘植生	緑の多い住宅地
ヨシクラス	工業地帯
	造成地
	開放水域

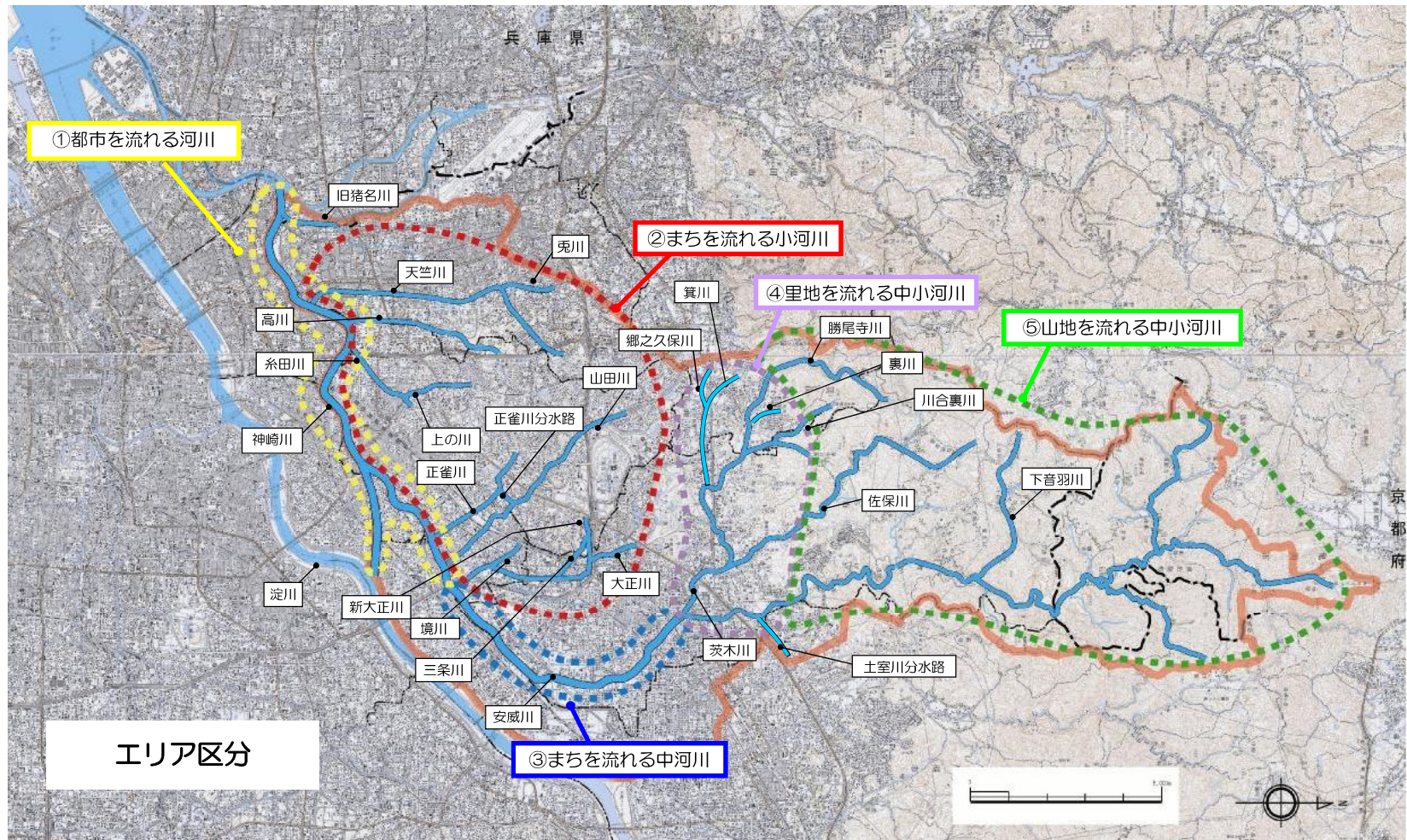


現存植生図から設定した神崎川流域のエリア区分

出典：自然環境保全基礎調査 第5回植生調査（H6～10）

## 河川の特徴による区分

土地利用・現存 植生図による区分	本川	支川
都市	<p>①都市を流れる河川</p> <p>神崎川 安威川（～大正川合流点）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地を流れる</li> <li>・感潮区間</li> <li>・デルタ地帯～</li> <li>・勾配は 1/2,000～</li> </ul> </div>  <p style="text-align: center;">神崎川 (往友金属裏上流)</p>	<p>③まちを流れる小河川</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地を流れる</li> <li>・水路状の川が多い</li> <li>・勾配は 1/90～500</li> <li>・川幅は 3～20m (大正川下流は～60m)</li> </ul> </div> <p>天竺川・兎川 高川 糸田川・上の川 山田川 大正川</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>天竺川 (日電橋付近)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>兎川 (東豊中橋下流)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>高川 (染の井公園付近)</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>糸田川 (新糸田川橋付近)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>上の川 (豊津駅付近)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>山田川 (一の橋下流)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>大正川 (春日橋下流)</p> </div> </div>
	<p>②まちを流れる中河川</p> <p>安威川（大正川合流点～茨木川合流点）</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市街地を流れる</li> <li>・勾配は 1/500～1,500</li> <li>・雪州が発達</li> </ul> </div>  <p style="text-align: center;">安威川 (山科橋下流)</p>	
里地	<p>④里地を流れる中小河川</p> <p>安威川（茨木川合流点～桑原橋）</p>  <p style="text-align: center;">安威川 (桑原橋下流)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・郊外を流れる</li> <li>・川幅が狭い</li> <li>・勾配は 1/100～350</li> </ul> </div>	<p>茨木川 佐保川（～熊ヶ谷川 合流点付近） 勝尾寺川（～西田橋） 川合裏川</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>茨木川 (上野橋上流)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>佐保川 (榎井橋下流)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>川合裏川 (裏川橋上流)</p> </div> </div>
	<p>⑤山地を流れる中小河川</p> <p>安威川 (桑原橋～)</p>  <p style="text-align: center;">安威川 (車作大橋上流)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>特徴</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山地を流れる</li> <li>・川幅が狭い</li> <li>・勾配は 1/30～70</li> <li>・瀬や淵が連続する</li> </ul> </div>	<p>佐保川上流(熊ヶ谷川合流点付近～) 勝尾寺川上流(西田橋～)</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>佐保川 (免山橋上流)</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>勝尾寺川 (勝尾寺橋上流)</p> </div> </div>
山地		



(1) 環境の現状

① 都市を流れる河川（神崎川、安威川下流（神崎川合流点～大正川合流点））

神崎川（猪名川合流点～安威川合流点）の沿川は市街化が進み、河道は堤防とコンクリート護岸で整備されており、水深は深く、干潟等の浅場の少ない環境で、入り組みの少ない単調な環境となっています。

魚類はボラ、スズキといった汽水域に生息するもの、および緩やかな流れを好むギンブナ、流れのある砂礫底を好むニゴイなどのほか、オイカワなどの淡水魚やアユが確認されています。回遊性生物としてはモクズガニが確認されていますが、種類、量ともに少ない状況にあります。

神崎川（安威川合流点～淀川分派点）もコンクリート護岸となっていますが、河岸には入り組みがあり場所によっては水草やヤナギ等の植物が進入しています。出現魚種としては下流の魚種に加えて最新の調査では清浄な水質を代表する種であるハス、コウライモロコその他、カマツカ（大阪府 RDB：要注目）などが確認されています。底生動物の出現種は 15 種と神崎川（猪名川合流点～安威川合流点）の約 4 倍となっており、ヤマトシジミ、セタシジミ（大阪府 RDB：Ⅰ類、環境省 RDB：Ⅱ類）、オオタニシ（大阪府 RDB：準絶滅危惧）、トンガリササノハガイ（大阪府 RDB：要注目、環境省 RDB：準絶滅危惧）が確認されています。ここは一津屋樋門の取水口下流にあり、淀川から生物の移入があること、河岸・河床が神崎川（猪名川合流点～安威川合流点）に比べて多様なことが要因と考えられます。

安威川下流（神崎川合流点～大正川合流点）の沿川も市街化が進み、コンクリート護岸となっていますが、出現魚種としては、汽水魚のボラや淡水魚ではコイ、フナ類があり、その他にもモツゴ（都市河川の一般的な種）、タイリクバラタナゴ（外来種、中下流、沼地の代表的な種）、カダヤシ（外来種）などが一般的に見られ、スジマドジョウ（型は不明）、メダカ（大阪府 RDB：Ⅱ類、環境省 RDB：Ⅱ類）なども散発的に確認されるようになり、下流に比べると生息空間が多様化しているものと考えられます。



② まちを流れる小河川（天竺川、高川、糸田川、上の川、山田川、大正川）

これらの川は千里丘陵周辺を水源として流下する河川であり、神崎川本川に比べて勾配の急な河川が多くなっています。昭和 30 年代の丘陵地開発により急激に都市化が進んだ地域です。平成のはじめ頃までは非常に汚濁した水質環境でした。このことも現在の生物相に影響しているものと思われます。

河道は大正川の下流部を除いてコンクリート護岸で整備されており、低水路部までコンクリート化された河川が多くなっています。このため、河川内は入り組みの少ない単調な環境となることが多くなっていますがところどころ州が形成されています。大正川の下流部では、安威川と同様「水と緑の回廊計画」に基づいた高水敷の遊歩道整備や桜堤整備が行われています。また、服部緑地等緑地が残されているところもあり、その周辺では両岸に樹木が覆い茂る環境となっています。

生物データが存在する天竺川、山田川、大正川には魚類が 18 種、底生動物が 53 種確認されています。魚類はコイ、ギンブナ（環境省 RDB：準絶滅危惧種）、タモロコ（大阪府 RDB：要注目）、ドジョウ（大阪府 RDB：Ⅱ類）、メダカ（大阪府 RDB：Ⅱ類、環境省 RDB：Ⅱ類）や、外来種のオオクチバスとブルーギルなどが確認されています。いずれも富栄養で流れのゆるやかな場所を好む魚類です。

底生動物はモノアラガイ（大阪府 RDB：要注目、環境省 RDB：準絶滅危惧）、サカマキガイ（外来種）、イトミミズ、ミズムシ、トンボ類など富栄養な水域に棲む種その他、回遊性のモクズガニが服部緑地付近まで遡上しているのが確認されています。

周辺には溜池が多いのも特徴であり、溜池にはサギ類、カモ類等多種の水鳥が飛来しています。



③ まちを流れる中河川（安威川中下流（大正川合流点～茨木川合流点））

茨木川合流点から下流の護岸工事は昭和61年に概ね完了し、河岸は兩岸ともにコンクリート護岸となっていますが、高水敷は遊歩道として整備されています。大正川合流点～茨木川合流点付近は土砂堆積が多いため、水際には砂州、植物帯が形成されています。

魚類は、一般的な河川において中下流域によくみられるオイカワをはじめとして、コイやギンブナ、モツゴ、タイリクバラタナゴ（外来種）、タモロコ（大阪府 RDB：要注目）など緩やかな流れを好む魚種が確認されています。砂礫底を好むカマツカ（大阪府 RDB：要注目）やドンコ（大阪府 RDB：要注目）、カワヨシノボリ等も見られるようになり、多くの種類の魚類が生息しています。また、底生動物ではサカマキガイ（外来種）、イトミミズ、ミズミミズ、ヒル類、ユスリカ類、ミズムシ類など富栄養な水域を好むものが目立ちますが、植生帯を生息場とするエビ類やカゲロウ類、トンボ類も確認されています。マシジミ（環境省 RDB：準絶滅危惧種）、モノアラガイ（大阪府 RDB：要注目、環境省 RDB：準絶滅危惧種）などの生息も確認されています。

安威川 茨木市 山科橋下流



安威川 茨木市西河原 茨木川合流点



④ 里地を流れる中小河川（安威川中上流（茨木川合流点～桑原橋付近）、茨木川、佐保川下流、勝尾寺川下流、川合裏川）

北摂山地へ続く山麓部であり、宅地開発が進められていますが、いまだ田畑や緑地等が残されている区間です。なお、茨木川流域には、国際文化公園都市として都市開発構想があり、川合裏川周辺は都市開発が進められています。

河川は改修済みの区間が大部分であり、コンクリート護岸の断面が多くなっていますが、場所によっては魚巢ブロックが置かれていたり、蛇籠が川底に敷き詰められていたりする等の整備が実施されています。

魚類の出現種をみると流れのゆるやかな場所に生息するギンブナ（環境省 RDB：準絶滅危惧種）をはじめ、砂底に潜る習性のあるズナガニゴイ（大阪府 RDB：II類）、砂や砂礫を好むカマツカやドンコ、平瀬を好むカワヨシノボリ、流れがある場所を好むオイカワ等が確認されています。瀬や淵の連続する箇所にはカワムツも確認されており、変化に富んだ生息空間が形成されているものと考えられます。横断構造物が多く、上下流の連続性に乏しい箇所では、ブルーギル、ブラックバスなどの外来種の定着が見られます。

底生動物は、カゲロウ類、サナエトンボ類、カワゲラ類、トビケラ類が多く確認され、カワニナ（大阪府 RDB：要注目）、モノアラガイ（大阪府 RDB：要注目、環境省 RDB：準絶滅危惧）、サワガニなども確認されています。

ドジョウ（大阪府 RDB：II類）、メダカ（大阪府 RDB：II類、環境省 RDB：II類）、ゲンジホタル（大阪府 RDB：要注目）等も確認されており里地的な環境が残されています。

安威川 茨木市西河原 茨木川合流点上流



茨木川 茨木市上野町 上野橋上流



勝尾寺川 茨木市清水 無名橋下流



佐保川 茨木市東福井 福井橋下流



㊦ 山地を流れる中小河川（安威川上流（<sup>くわのぼら</sup>桑原橋〜）、佐保川上流、<sup>かづのぼら</sup>勝尾寺川上流）

山付け部の河畔林が連続し、瀬・淵の連続がみられるなど、多様な生物の生息環境が残されている区間です。特に安威川と下音羽川の合流点付近は府内でも稀少なアラカン群落となっています。魚類ではカワムツ、カマツカ（大阪府 RDB：要注目）、ドンコ（大阪府 RDB：要注目）、オイカワ、タカハヤ（大阪府 RDB：要注目）、ムギツク（大阪府 RDB：II類）、ズナガニゴイ（大阪府 RDB：II類）、アユ（放流魚）などがみられ、石礫の下にカワヨシノボリ、アカザ（大阪府 RDB：II類、環境省 RDB：II類）、陸封型カジカ（大阪府 RDB：I類、環境省レッドリスト：準絶滅危惧(NT)）、ギギ（大阪府 RDB：準絶滅危惧）、アジメドジョウ（大阪府 RDB：I類、環境省 RDB：絶滅のおそれのある地域個体群、西限）などが確認されているなど、良好な生息環境が形成されています。アジメドジョウは伏流水の発生する箇所<sup>すゝ</sup>に生息し、安威川の個体群が日本での生息箇所の西限となっています。

底生動物<sup>ていせいどうぶつ</sup>では、トビゲラ類、カワゲラ類、カゲロウ類が数多く確認されています。アオサナエ（大阪府 RDB：準絶滅危惧）、ホンサナエ（大阪府 RDB：準絶滅危惧）、ゲンジボタル（大阪府 RDB：要注目）等も確認されています。

安威川の調査及び佐保川の調査ではオオサンショウウオ（大阪府 RDB：II類、環境省 RDB：II類、特別天然記念物）が確認されています。



下音羽川 茨木市車作 安威川合流点付近

安威川 茨木市車作 車作大橋下流



佐保川 茨木市佐保 免山橋上流



勝尾寺川 箕面市粟生間谷 つるしま橋下流



◎ 安威川

安威川は、下流部が護岸工事の完了した単調な都市河川である一方、上流側に比較的多様で良好な生息環境が残っています。安威川の4つのエリアの種数を外来種や放流魚を除いた魚種についてみると、下流から9種、10種、12種、16種、底生生物については下流から36種、50種、104種、146種いずれも上流ほど種多様性が高くなっています。また、貴重種が多いのも安威川の特徴となっています。

○安威川下流部（神崎川合流点～大正川合流点）

河床勾配は1/2000程度と緩やかで、感潮域となっています。河道は堤防とコンクリート護岸で整備され、単調な水際線となっています。水深は深く、干潟等の浅場の少ない環境で、入り組みの少ない単調な環境となっています。

魚類は汽水性の魚類としてはボラが、淡水魚ではコイ、ギンブナ（環境省 RDB：準絶滅危惧種）、モツゴ、タイリクバラタナゴ（外来種）、カダヤシ（外来種）、ブルーギル（外来種）、カムルチー（外来種）など、いずれも水質には幅広く耐性のある種が主ですが、スジシマドジョウ（型は不明）、メダカ（大阪府 RDB：Ⅱ類、環境省 RDB：Ⅱ類）、ドジョウ（大阪府 RDB：Ⅱ類）なども確認されています。底生動物ではサカマキガイ（外来種）、イトミミズ、ミズミミズ、ヒル類やユスリカ類、ミズムシなど貧酸素に強い種が多く見られますが、タイリクバラタナゴが広く分布することから、産卵宿主となる二枚貝の生息が推測されます。河岸よりにあるわずかな植物帯でクロベンケイガニが確認されています。

○安威川中下流部（大正川合流点～茨木川合流点）

河床勾配は1/1500～1/500程度となっており、コンクリート護岸が整備されています。土砂堆積がみられるのがこの区間の特徴であり、寄り州が発達し、水際には砂州、植生帯が形成されています。深い大きな淵はありませんが、緩やかに蛇行しており、中流型の河川形態を示しています。

魚類は、大正川合流点下流で見られたコイやギンブナ（環境省 RDB：準絶滅危惧種）、モツゴ、タイリクバラタナゴなども生息しますが、淀みにすむタモロコ（大阪府 RDB：要注目）、砂底の底生魚カマツカ（大阪府 RDB：要注目）、瀬を好み遊泳力のあるオイカワ、生きた魚や底生動物を食べるので多くの生物の生息を必要とするドンコ（大阪府 RDB：要注目）など、生息環境を反映して下流よりも多くの魚種が生息しています。また、底生動物では下流部同様の貧酸素に耐性のある種が目立ちますが、確認種数は下流部よりも多くなっています。植生帯を生息場としていると思われるエビ類が多く出現しています。モノアラガイ（大阪府 RDB：要注目、環境省 RDB：準絶滅危惧）が生息しますが、競合する外来種のサカマキガイがより広く優勢な分布域を示しています。

○安威川中上流部（茨木川合流点～桑原橋付近）

北摂山地へ続く山麓部に位置し、河床勾配は1/300程度と急勾配になってきています。コンクリート護岸が整備されていますが、場所によっては多自然型工法によって整備されている区間もみられます。長ヶ橋付近より上流側は砂礫底の蛇行した河川形態を示しており、水質も清澄で良好な生息環境となっています。

魚類では、茨木川合流点下流にも見られたオイカワ、カマツカ、ドンコなどのほかに、上中流に特徴的なカワムツ、カワヨシノボリが連続的に分布するようになります。貴重な種としてはムギツク（大阪府 RDB：Ⅱ類）、ズナガニゴイ（大阪府 RDB：Ⅱ類）、シマドジョウ（大阪府 RDB：要

注目）などが確認されています。ムギツクには他の魚の巣に卵を産みつけて、その巣の親（宿主）に卵を守ってもらう托卵という習性があり、この水域ではドンコを宿主としていると考えられます。ズナガニゴイ、シマドジョウはいずれも砂底にもぐる習性を持つので、水が浸透してやわらかい砂底があることが必要です。底生動物は、清澄な水質を反映してカゲロウ類、カワゲラ類、トビケラ類が多く確認され、カワニナ（大阪府 RDB：要注目）、モノアラガイ（大阪府 RDB：要注目、環境省 RDB：準絶滅危惧）、ホンサナエ（大阪 RDB：準絶滅危惧）、アオサナエ（大阪府 RDB：準絶滅危惧）が確認されています。

○安威川上流部（桑原橋付近～上流）

河床勾配が1/70程度と急勾配の河川となり、河畔林が水際まで迫る溪流の様相を示し、瀬・淵の連続する多様な河川形態を示しています。多様な生物の生息環境が残されています。

魚類で桑原橋の下流でも見られたオイカワ、カマツカ、ドンコ、カワムツ、カワヨシノボリ、ズナガニゴイ（大阪府 RDB：Ⅱ類）、シマドジョウ（大阪府 RDB：要注目）などの他に、タカハヤ（大阪府 RDB：要注目）、アジメドジョウ（大阪府 RDB：Ⅰ類、環境省 RDB：地域個体群）、ギギ（大阪府 RDB：準絶滅危惧）、アカザ（大阪府 RDB：Ⅱ類、環境省 RDB：Ⅱ類）、陸封型カジカ（大阪府 RDB：Ⅰ類）などの貴重種が多種生息しています。アジメドジョウは冬季には伏流水に深く潜るなど生態が特異で、生息に必要な条件を具える河川は多くありません。日本固有種で分布が限られており、安威川の個体群は西限にあたるので環境省 RDB において「絶滅のおそれのある地域個体群」に指定されています。カワヨシノボリは日本固有のハゼで個体群ごとの遺伝的変異が大きいことで知られています。止水域では生息できないのでダム湖の区間からは消失することが予想されます。底生動物では、トビケラ類、カワゲラ類、カゲロウ類が多く、さらにアマカ類、カワニナ（大阪府 RDB：要注目）、ミヤマサナエ（大阪府 RDB：Ⅱ類）、キイロサナエ（大阪府 RDB：準絶滅危惧）、アオサナエ（大阪府 RDB：準絶滅危惧）、ゲンジボタル（大阪府 RDB：要注目）が確認されています。

また、両生類ではオオサンショウウオ（大阪府 RDB：Ⅱ類、環境省 RDB：Ⅱ類、特別天然記念物）やカジカガエル（大阪府 RDB：要注目）が確認されています。

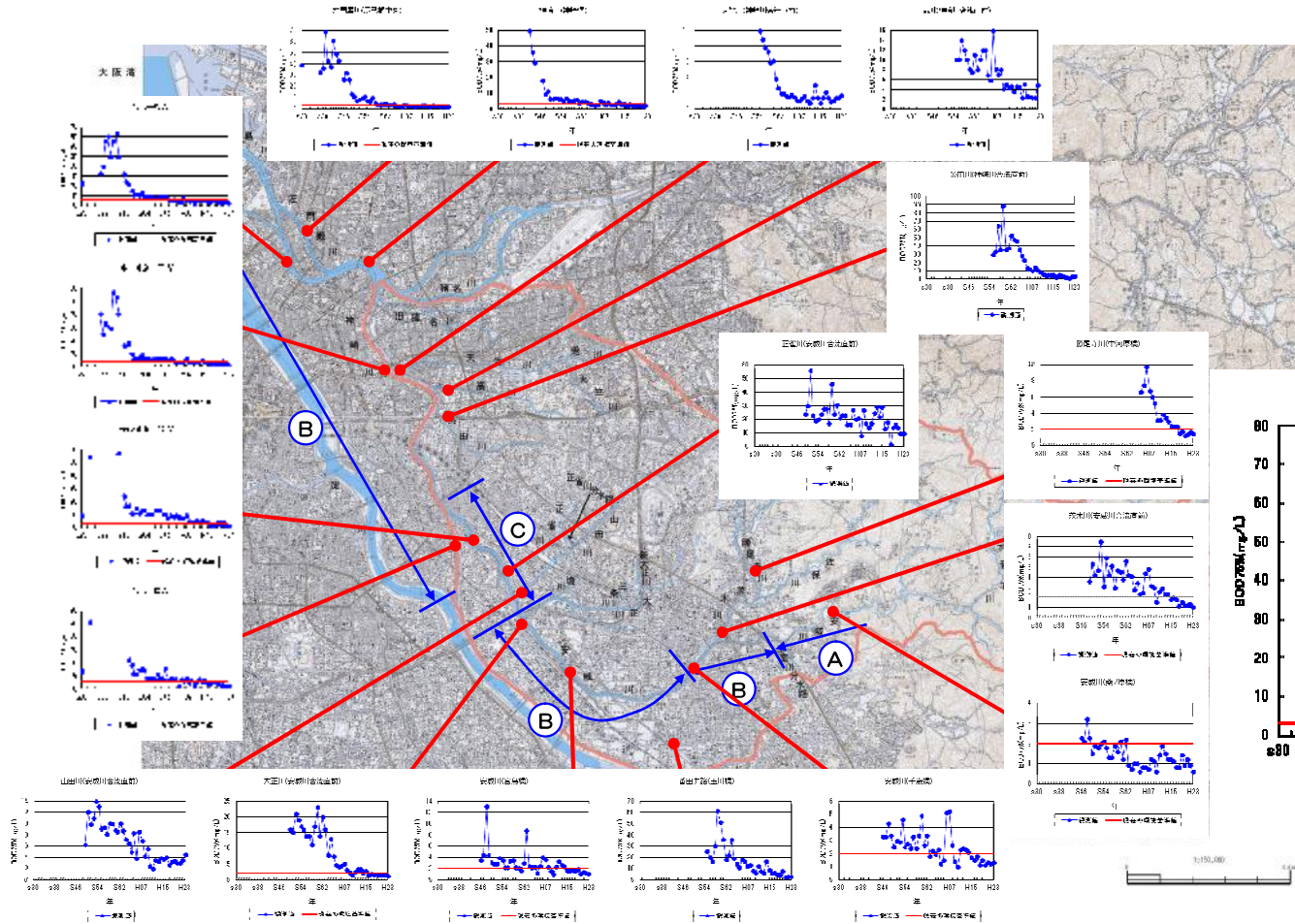
		下流～大正川合流点	大正川合流点～茨木川合流点	茨木川合流点～桑原橋	桑原橋～上流
魚類	種数	9	10	12	16
	貴重種	ドジョウ メダカ	タモロコ カマツカ ドンコ ハス	タモロコ、ムギツク カマツカ ズナガニゴイ シマドジョウ ドンコ	タカハヤ、ムギツク、 ズナガニゴイ、ギギ、 アジメドジョウ、アカザ、 シマドジョウ、ドンコ、 陸封型カジカ、アブラハヤ カマツカ、イトモロコ
底生動物	種数	36	50	104	146
	貴重種		モノアラガイ	カワニナ チリメンカワニナ モノアラガイ ホンサナエ アオサナエ	カワニナ、モノアラガイ、 ホンサナエ、ヒメサナエ、 チリメンカワニナ、 ミヤマサナエ、アオサナエ キイロサナエ ゲンジボタル
両生類	貴重種				オオサンショウウオ カジカガエル



(2) 水質の現状

神崎川では昭和50年以前には環境基準(BOD値)を大きく越えていましたが、その後改善され、平成以降はB類型の環境基準値である3.0mg/l前後となっており、概ね5.0mg/l以下で保たれています。

安威川では、A類型・B類型の環境基準が設定されています。環境基準点におけるBOD値の推移をみると、近年においてすべての地点で環境基準を達成しています。



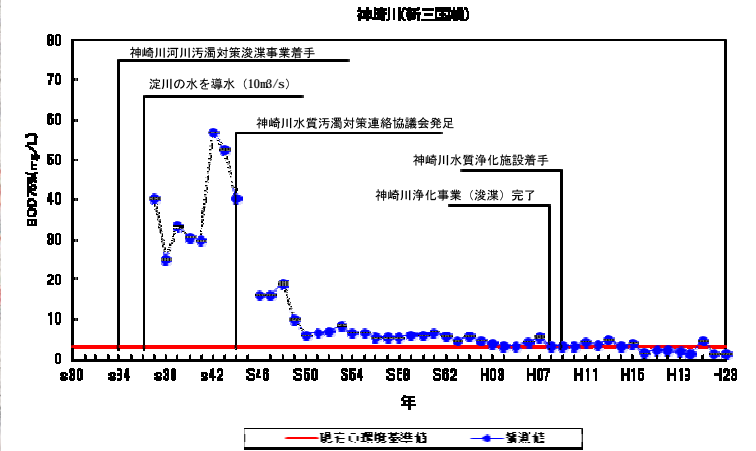
神崎川の水質観測地点と平成23年度の測定結果

		BOD75%※ (mg/l)	類型指定
神崎川	千船橋	1.8	B
	神崎橋	2.1	B
	新三国橋	1.5	B
	小松橋	1.2	B
左門殿川	辰巳橋	1.8	B
糸田川	神崎川合流点	2.9	—
高川	神崎川合流点	4.8	—
天竺川	神崎川合流点	1.7	—
番田井路	玉川橋	2.9	—
安威川	新京阪橋	1.6	B
	宮島橋	1.1	A
	千歳橋	1.3	A
	桑原橋	0.6	A
茨木川	安威川合流点	1.0	A
大正川	安威川合流点	1.2	A
山田川	安威川合流点	4.5	—
正雀川	安威川合流点	9.5	—
勝尾寺川	中河原橋	1.4	A

\*環境基準(BOD,単位 mg/l)

A 類型：2.0、B 類型：3.0

※ BODが1年間の内、水質の良いほうから75%となる値であり、BODに係る環境基準の指標となっています。



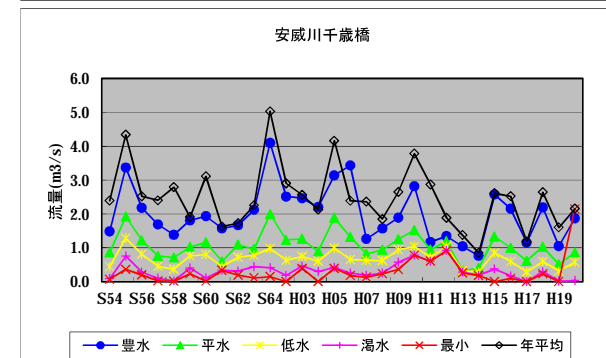
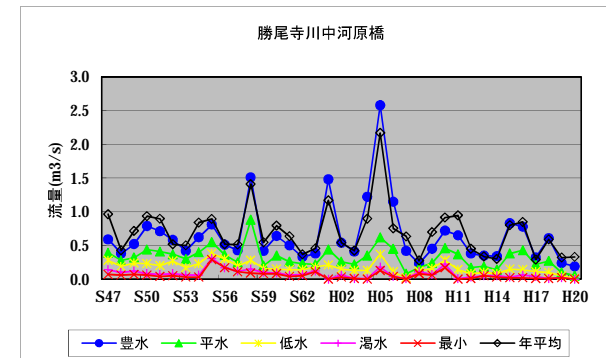
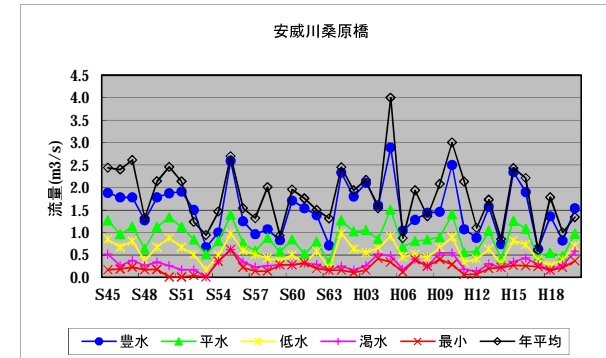
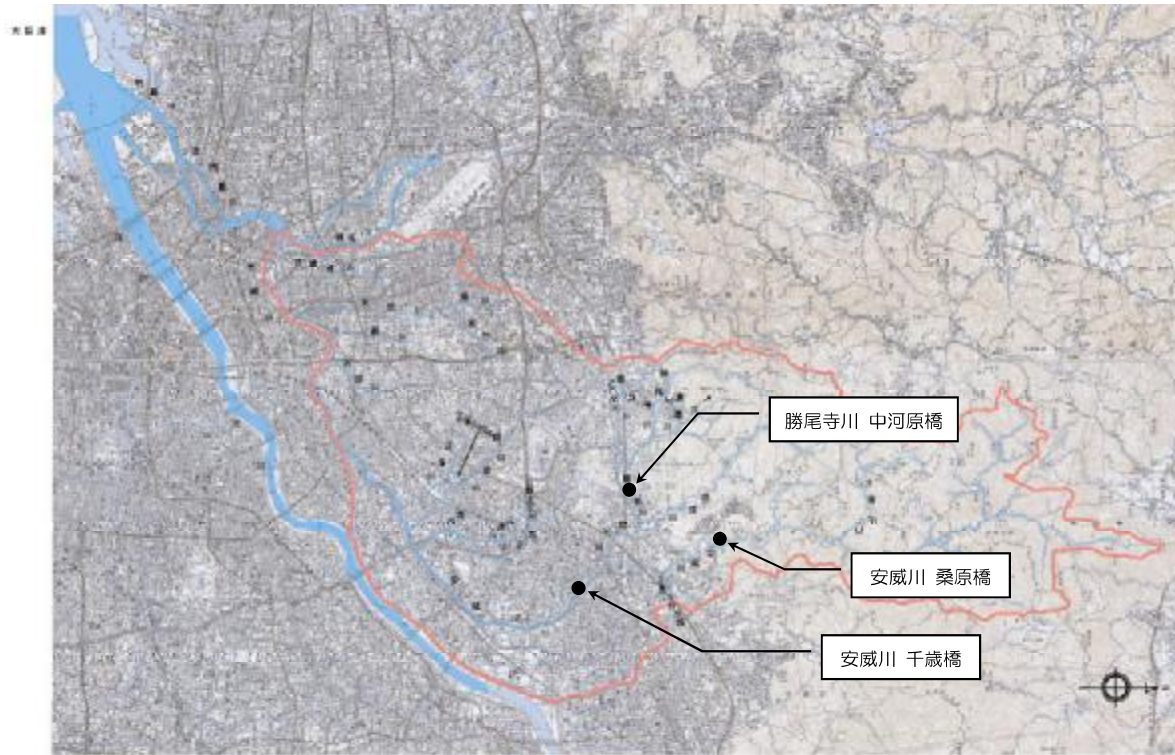
エコギャラリー おおさかの環境ホームページ

○流況

安威川の桑原橋、千歳橋では経年的に流量が計測されています。平水流量の比流量は桑原橋地点で  $0.016\text{m}^3/\text{s}/\text{km}^2$ 、千歳橋地点で  $0.011\text{m}^3/\text{s}/\text{km}^2$  となります。

神崎川ブロックにおける近年30年（昭和54年～平成20年）の流況表

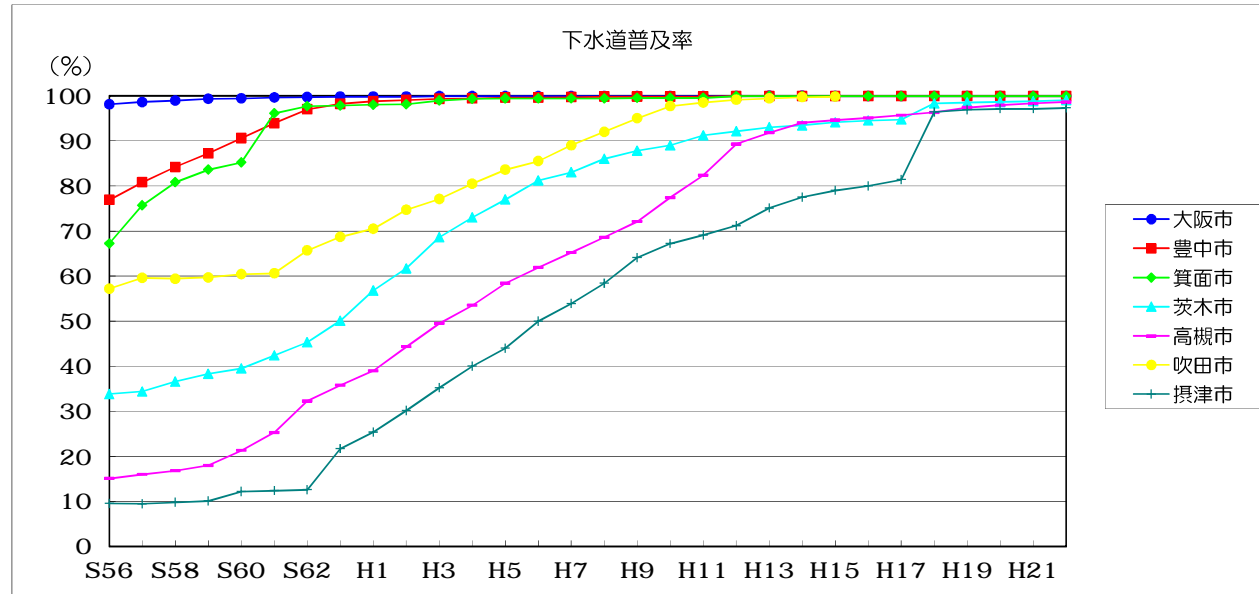
	河川名	地点名	流域面積 $\text{km}^2$	豊水 流量 $\text{m}^3/\text{s}$	平水 流量 $\text{m}^3/\text{s}$	低水 流量 $\text{m}^3/\text{s}$	濁水 流量 $\text{m}^3/\text{s}$	平水流量/ 流域面積 $\text{m}^3/\text{s}/\text{km}^2$
神崎川ブ ック	安威川	桑原橋	52.2	1.48	0.84	0.56	0.32	0.016
		千歳橋	96.9	1.91	1.02	0.64	0.27	0.011



+ 豊水流量・平水流量・低水流量・濁水流量は、一年を通じての日流量を大きい方から小さい順に並び替えて算出し、それぞれ次のように示している。  
 【豊水流量】 1年を通じて95日はこれを下らない流量を言う。  
 【平水流量】 1年を通じて185日はこれを下らない流量を言う。  
 【低水流量】 1年を通じて275日はこれを下らない流量を言う。  
 【濁水流量】 1年を通じて355日はこれを下らない流量を言う。

○下水道の普及状況

神崎川ブロックの関連市町村の下水道普及率（汚水）は、平成22年度末時点で90%を越えており高い整備水準を示しています。



出典：大阪府下水道統計

平成22年度末時点の下水道普及率

表 平成22年度末時点の下水道普及率

市	下水道普及人口	下水道普及率	市	下水道普及人口	下水道普及率
大阪市	2,657,394 人	99.9%	摂津市	83,962 人	97.3%
豊中市	395,024 人	99.9%	箕面市	129,862 人	99.9%
茨木市	274,609 人	99.0%	高槻市	358,183 人	98.6%
吹田市	352,173 人	99.9%			

出典：大阪府下水道統計

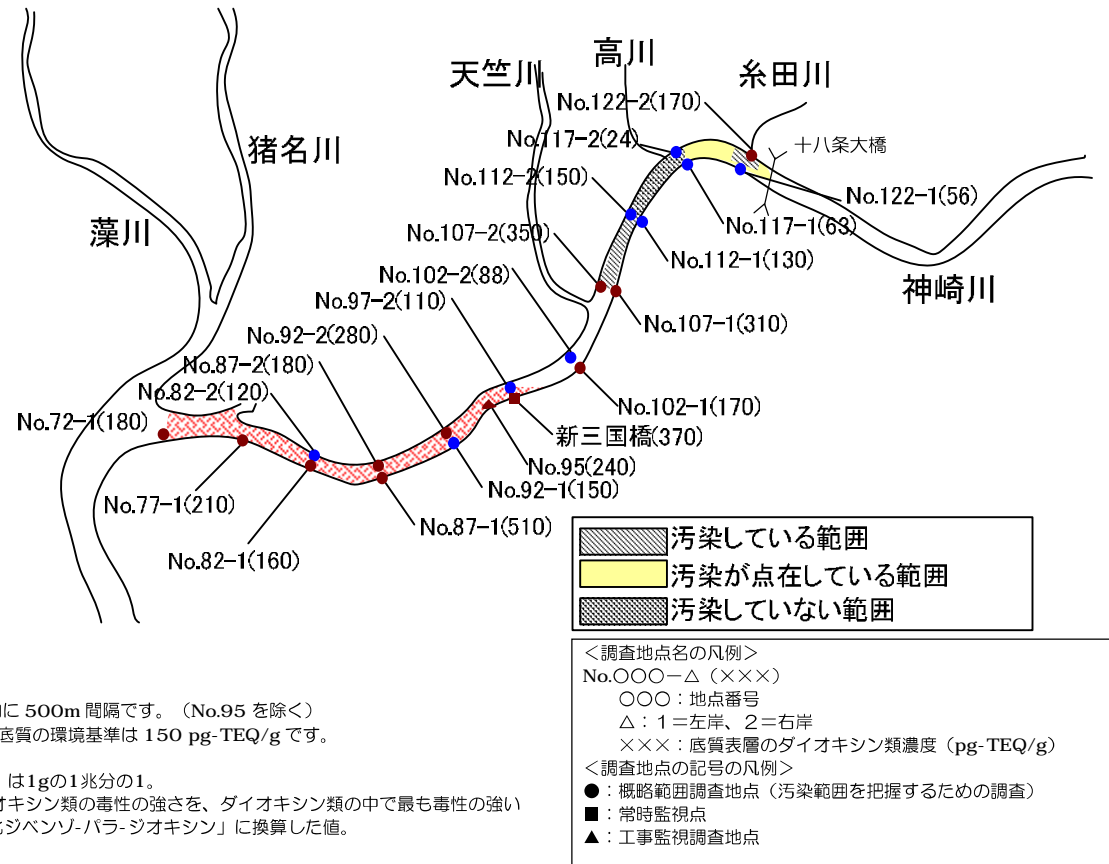
表 処理区別普及率

名称	処理区名	計画区域内人口(人) [A]	整備人口(人) [B]	普及率% [C=A/B]	雨水放流先
猪名川流域下水道	原田	412,929	412,787	99.9	猪名川
安威川流域下水道	中央	504,265	499,291	99.0	安威川
淀川右岸流域下水道	高槻	422,226	416,027	99.2	淀川
大阪市	大野	224,387	224,383	99.9	神崎川
	十八条	217,275	217,275	100.0	神崎川
豊中市	庄内	111,104	111,049	99.9	神崎川
	尼崎北部	4,466	4,466	100.0	神崎川
吹田市	川面	31,113	31,113	100.0	神崎川
	正雀	50,418	50,416	99.9	神崎川
	南吹田	110,988	110,879	99.9	神崎川

出典：大阪府下水道統計 平成22年度末の状況

○水質浄化

近年神崎川の底質において新たな汚染物質（ダイオキシン類等）の顕在化が問題となっています。



\* 図の地点は、流下方向に500m間隔です。(No.95を除く)  
 + ダイオキシン類に係る底質の環境基準は150 pg-TEQ/gです。  
 pg-TEQ/g：  
 pg (ピコグラム) は1gの1兆分の1。  
 TEQとは、ダイオキシン類の毒性の強さを、ダイオキシン類の中で最も毒性の強い「2,3,7,8-四塩化ジベンゾ-パラ-ジオキシン」に換算した値。

汚染範囲 (表層) (平成 16~17 年調査結果)

### (3) 河川環境の課題

都市を流れる河川、まちを流れる小河川では一部を除き、生息環境が単調であるため、生物の種が貧困となっています。多様な生息環境を創成するための、生物の生息・生育環境の整備が課題となります。

また、まちを流れる小河川では、平常時の流量が少ないことも貧困な生物種数の一因となっていることから、既存の溜池の貯留水や下水道の処理水などの有効利用による維持流量確保のための対策が必要となっています。

まちを流れる中河川は比較的多くの生物種が生息していることが確認できており、瀬と淵、河岸植生などを保全することが今後の課題となります。

里地を流れる中小河川の周辺には水田や樹林があり、川と背後地の連続した環境が維持されており、鳥類、昆虫類の生息場となっています。これらを維持していくことが今後の課題となります。

山地を流れる中小河川には豊かで良好な自然環境が残されており、周辺環境と一体となった河川環境の保全が課題となります。

安威川ダム建設予定地は、豊かな自然環境が残されているところであることから、多くの自然環境が失われることを認識した上で、周辺自然環境への影響を可能な限り少なくする保全対策を実施する必要があります。ダム建設工事中の対策だけでなくダム建設後も、上流域への影響も考慮しながら、貯水池の水質の維持や下流の生態系に配慮した放流計画、貯水池への堆砂と下流への土砂供給の遮断などの課題があるため、対策の検討が必要です。

また、神崎川では底質の汚染物質（ダイオキシン類等）対策を行う必要があるほか、油流出などの水質事故が多発していることから、その対策も必要となっています。さらに全川において水質の維持改善につとめていくことが必要です。

### 4. 河川整備の課題

神崎川ブロックは、人口密集地域であること、国土軸に位置していることから大阪府下でも重要な流域であり、堤防の決壊などの洪水被害は甚大なものとなることや、近年の降雨状況から局地的な集中豪雨が増えてきていることなどから、現状での治水安全度からの早期のレベルアップが必要です。しかし、市街化の進行した当ブロックでは河道拡幅や河床掘削などによる対応が困難となってきたことから、ダムなどの洪水調節施設の整備や、流域に存在する溜池などの有効活用をはじめとする流出抑制対策も求められています。

また、流域内には桁下が計画高水位（H.W.L）を下回る橋梁があり、洪水流を阻害し、破堤や越水などを引き起こすおそれがあるため、改築のためには嵩上げが必要です。

一方、内水域における浸水被害対策については、河川整備だけでなく、下水道整備の進捗が必要不可欠となっています。

更に、千里丘陵などの開発に伴い整備された河川が多く、護岸などの老朽化や、土砂供給の減少に伴う河床低下などが懸念されます。

河川の水利用においては、過去に幾度となく多くの渇水を経験しており、維持流量の確保が求められています。渇水による影響には、農業用水に代表される水利用への悪影響だけでなく、瀬切れ（瀬枯れともいう）が発生することによる自然環境への負荷などが考えられ、流量が少なくなることによる水質の悪化も考えられます。渇水被害についても、近年の降雨状況から深刻化することが懸念されます。

また、都市化が著しく進展した神崎川や安威川の中下流域では、河川空間は貴重な水と緑のオープンスペースであり、桜堤や遊歩道などの環境整備が進められてきました。今後も、既成市街地のなかでも良好な生活空間の再生や自然環境の創出を進める地域の活動などとの協働により、環境整備を進めることが重要となります。

中上流部や山間部では、里地の田園風景や都市近郊では豊かな自然環境を有する里山から北摂山地の景観や環境を活かし、河川環境の保全や整備に十分配慮する必要があります。

神崎川ブロックは都市化が進んだ地域であり、地域住民や企業などのまちづくりへの参加意欲が高く、様々な活動が展開されています。河川の治水、利水及び環境の整備にあたっては、このような地域の活動と連携し、協働による取り組みを進める必要があります。